

酪農の主役を女性に！

大阪府立農芸高等学校 資源動物科 3年 園田 つむぎ

私が初めて牛に触れたのは、小学生の頃に観光牧場へ訪れた時のことです。羊やポニーなど初めて見る動物ばかりの中、ひときわ大きな体の牛がいました。そこでは、牛の乳搾り体験を行っておりその体験をした時、命のぬくもりや牛から牛乳をいただいているということを切に感じました。その後、中学生になり進路を決定する際、幼い頃観光牧場で牛に触れ合った時のことを思い出しました。そして、小学生の時に抱いた牛への興味が再び湧き始め「牛のことをもっと知りたい!」「自分で一から牛を育ててみたい!」と思うようになりました。その後、大阪で唯一牛を飼育する大阪府立農芸高等学校資源動物科に入学し、酪農専攻に入部しました。そこでは、生徒が乳牛の飼養管理、搾乳を行い毎日欠かさず生乳を出荷しています。また、その生乳を使って乳加工品を製造しており、牛乳を地域の方々に販売しています。

酪農専攻に入部してすぐ、私は酪農の現実を目の当たりにしました。ある1頭の搾乳牛が分娩後すぐ乳房炎にかかり起立不能になったのです。起立不能になった牛には二度と起き上がることなく安楽死させるしかありませんでした。そのとき、1年生だった私は何かなんだかわからず、ただただ酪農の厳しさを痛感すると同時に私たちは牛の命を預かっているのだという現実を思い知らされました。

他には、流産や難産による死産で失われた命も目の前で見えてきました。しかし、それと同様に新しい命の誕生もたくさん見てきました。その度、命の意味や重みを身に染みて感じました。それらは、私たちに学びを与え、次に繋がる糧となりました。また、日々成長する牛と向き合う充実感は大きく、とてもやりがいを感じます。それが嬉しくて、私はいつの間にか酪農から離れられなくなっていました。

去年、私は初めて女性が酪農の世界でも活躍しているということを知りました。本校に「酪農の夢」出張授業で女性の酪農家の方が来られた時のことです。そこでは、就農したきっかけや仕事のやりがい、酪農の魅力などについて話していただきました。私と同じで非農家出身の方のお話も聞け、そのときまであまり現実的には考えていなかった酪農という職業を真剣に考えてみる良いきっかけになりました。

以前から、実際に牧場研修に訪れたいと思っていた私は、今年の春、香川県にある広野牧場に一週間インターンシップに行きました。そこでは、300頭ほどの搾乳牛を飼育しており、そこで搾った生乳を使用したジェラートも販売していました。私は1週間の間、子牛の哺乳、育成牛や乾乳牛の餌やりを行いました。本校では、ピーク時でも子牛は3、4頭なのに対し、広野牧場では約30頭もの子牛を飼育していました。そのため作業量は多く、一頭一頭の

名前を覚えることに必死でした。1週間、私は2人の女性従業員さんに作業を教えていただきました。お二人は子牛の哺乳担当の方々と、「今は子牛30頭しかいないけど夏は出産ラッシュだから最大80頭も哺乳しているよ」とおっしゃっていました。それを聞き、学校とは比べ物にならない頭数で私は想像もできませんでした。30頭でも作業量が多く、個体管理が大変なのに、女性従業員の方々はとても楽しそうに作業を行っていました。私はその姿を見たとき「かっこいいなあ。」と感動しました。今まで、私の酪農のイメージでは、力持ちの男性が大型機械に乗り男性が活躍する仕事だと考えていました。ですが、広野牧場では、男性従業員さんがいる中で女性の方も力強く、とてもいきいきしながら作業を行い、男性に負けないぐらいの作業量をこなしていました。そして、インターンに行く以前に「酪農の夢」出張授業のお話を聞いていたこともあって、実際に女性が酪農の世界で活躍している姿を見たときは本当に感動しました。

現在、日本酪農は高齢化が進み後継者不足が大きな問題となっています。しかし、最近では、大型機械を導入している牧場も多く、労働力も減り昔よりも女性が活躍しやすい環境に変化しています。そして、新たな担い手として女性が今よりもっと酪農の世界に進出していけば、現在の日本酪農はより元気になるのではないかと考えます。また、女性だからこそできる酪農経営があると思います。今まで男性だけでは思いつかなかった女性のアイデアを取り入れた酪農経営を展開することで、経営多角化の一つの選択肢になると考えます。

しかし、実際に女性が酪農に興味を持たなければ何も始まりません。酪農のことを知らない人は「酪農って朝早いし、力仕事ばかりで大変そう」そんなイメージを持った方が大半だと思います。確かに、酪農は大変なことばかりです。しかし、その中でも動物好きの人や一度でもこの職業に興味を持ったことがある人たちはたくさんいるはずです。実際に、酪農専攻ではそのような動機で入部した生徒が大半で、部員の7割が女子生徒です。

私たちは、搾った牛乳をただ出荷するのではなく、オリジナル牛乳の校外販売を去年から行っています。また、地域洋菓子店とコラボし商品販売も実施しました。また、その時購入して下さったお客様の大半が女性だったことに気づきました。

このことから、地域への販売を行えば、より多くの女性に酪農の魅力を知ってもらいきっかけに繋がるのではないかと考えます。それを女性が行うことにより、女性の消費者と同じ目線で販売プランや経営が可能になります。また、それを消費者が多いこの大阪で行うことによりその発信力は拡大するはずです。

これらの体験をしていくうちに、私はある夢を抱くようになりました。それは、大阪で地域に密着した牧場で女性酪農家として働くことです。消費者が多い大阪で行うことで、より多くの女性に酪農の魅力を知ってもらい、その中から一人でも多くの女性が酪農の

仲間入りをして欲しい。そして、そんな人たちに背中を追ってもらえるような酪農家をめざしたい!この夢を叶えるためにも大学へ進学し、今よりもっと深く酪農について学んでいきたいと思っています。酪農に出会った今、その存在はいつしか私の中でとても大きなものとなりました。いつか、この夢が現実になることを信じ、私はこれからも走り続けます。